

(個人研修) 菊地陽子

- 研修テーマ：**
- ・ 地域包括ケアシステム、チームケアでのケアマネジメント手法
  - ・ 認知症、障害者を含む高齢者を取り巻く環境と自己決定の尊重
  - ・ ノーマリゼーションの思想に基づいた援助について学ぶ

研修地： デンマーク、ボーゲンセ

研修日： 5月28日～6月2日

### **Nordfyns Hoiskole 国民高等学校**



デンマークの社会福祉制度、デンマークの在宅福祉、介護についてバンク・ミケルセン財団理事長千葉忠夫先生、Nordfyns Hoiskole Momoyo T. Jørgensen副校長より講義を受ける。デンマークの社会福祉国家としての教育制度、高齢者福祉の変遷など興味深い内容でした。

デンマークと日本の民主主義について考えさせられる内容でした。一番印象に残っているのはピザの分け方です。3人でピザを分ける時に日本人の考える平等とデンマーク人が考える平等、価値観や考えの違いが分かりやすくデンマークが社会福祉国家と言われている理由が分かった気がしました。

### **Local Center Rosengard 高齢者センター**



コミュニンプライムではなく理事会が決定権を持っている施設。コミュニンの政治的な外枠は一緒だが、理事会の意向で運営に関しては決定権を持っていることになる。入居判定はコミュニン（ビジテーター）で行われ入居する。センター内は2つのユニットに分けられており各28室（バストイレ付き個室）で全部で56室。

センター内は医療ニーズが高く重度の方、精神疾患、認知症、身体的なケアニーズが高い人が入居している。街中にはたくさん見かけるが、ここではあえてAEDは置いていない。とのこと。デンマークは在宅サービスが整っているため、重度になってから入居することが多く最短入居期間は14日。



センターを取り囲むように100の住宅があり、自立度の高い入居者が暮らしている。

66平米で自宅より家具を持ち込んで入居。自身で調理することもできるが、センターで昼食を食べたり、配食も可能。支援が必要な時間は訪問してもらうことができる。

センター内にある施設はすべて利用できるようになっており、重症化した時は住み替えができるようになっている。もちろんセンターに空きがある時に限りであり、空きがない時は他の

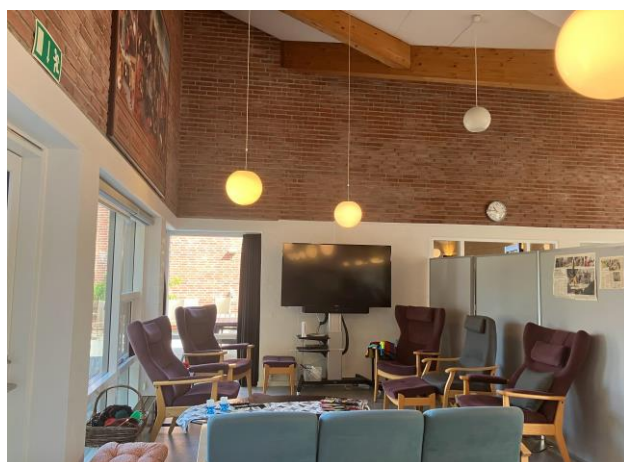
施設に移動することもあるとのことでした。

独居での生活に人恋しさや寂しさが強くなってきた時に住み替えることが多い。デンマークは高齢になった時に家族と同居することは殆どないとのこと。

## Brenderup Dagcenter 高齢者デイセンター



20人弱の利用者、スタッフとともにお茶をしながらゆっくりとした時間が流れスタッフに編み物を教わったりする様子も見られた。



ディルールの一角にあるラウンジ

併設する入居住宅も見せてもらうことが出来ました。

訪問させて頂いた女性は88歳で歩行器を使用していました。スタッフが本人に一人で住んでいることに対して質問すると、毎日娘さんの面会があり、ここでの生活は淋しくないと言っていました。

住宅に住んでいる人たちは、みんなそれぞれ自分の庭を持っていて、自由に花や植物を育てることができるとのこと、この方の部屋の中には鉢植えの植物を始め、花瓶に飾られた季節の花などがたくさんありました。

